

世界の子どもたちの人権を考えよう

～ 自分たちの生活を振り返り、自分に何ができるのかを考えよう ～

6年 総合的な学習

鳥取県西伯郡南部町立会見小学校 研究代表者 田中 恒治先生
TEL 0859-64-2016 FAX 0859-48-3008

1. 研究のねらい

本校6年生は総合的な学習において「人権」をテーマとして取り組んでいる。1学期は平和学習に取り組み、戦争体験者から話を聞いたり、広島へ修学旅行に行き資料館で学習を深めたりして戦争の恐ろしさや命の尊さ、平和の大切さを学んだ。2学期以降は部落問題を中心に身のまわりの様々な差別問題を取り上げながら人権について学習をした。

そして、さらには世界にも目を向け、なかでも自分たちと同じ子どもたちの人権はどうなのかをみんなで考えることにした。現在の世界の子どもたちの実態やユニセフの活動などを調べ、自分たちの考えや思いをまとめ発信する活動を通して、児童が自分たちの生活を振り返り、自分たちにできることを考え実行し自分自身をしっかり見つめることにより、これからの自分の生き方に生かしていけるようにしたいと本単元を設定した。

2. 活動計画

(9月～2月) 【全33時間】

- ①子どもの権利条約を調べよう。(9月)
- ②世界の子どもたちの人権について(世界の子どもたちの実態はどうなのか)(9月)
- ③ユニセフについて知ろう(10月)
- ④青年海外協力隊の方の話を聞こう。(ガーナ、スリランカ) (10月、2月)
- ⑤テレビ会議で日本ユニセフ協会の職員とお話をしよう。(11月)
- ⑥学んだこと、自分たちのメッセージを劇にして多くの人に発信しよう。(11月)
- ⑦自分たちにできることを考え、実践しよう。(12月)
- ⑧これまで学習したことや自分たちの思いを下級生に伝えたり、卒業制作に表現したりしよう。(1～3月)

3. 実践

【9月】

- 子どもの権利条約について調べよう
1学期の平和学習を受けて、2学期に入り、人権をテーマに学習を進めてきた。児童は子どもの権利条約について調べ、世界中の子どもたちがもっている権利について学習した。
- 世界に目を向け、世界の子どもたちの実態を知ろう
子どもの権利条約が本当に守られているのか、世界の子どもたちの実態はどうなのか、テーマをいくつか絞って調べた。

《テーマ》

- ・学校に行けない子どもたち ・ 伝染病や栄養不良 ・ 水と衛生 ・ 戦争と子どもたち
- ・ ストリートチルドレン ・ 過酷な労働

★調べ学習で用いた資料等

- ・ ユニセフのホームページ「子どもと先生の広場」
- ・ ユニセフ視聴覚ライブラリービデオ
「すべての人にきれいな水を ～ネパールからの報告～」

「カンボジアの子どもと未来 ～教育と識字プロジェクト～」

「バングラディッシュは今 ～未来にかけるユニセフの活動～」

「I am a child ～働かされる子どもたち～」

調べていく中で、学校に行きたくても行けない、過酷な条件の中で働かざるをえない、きれいな水が飲めないなどの子どもたちの実態を知り、児童はなぜこんな状態なのか疑問をもち、さらに調べてみたいという気持ちが高まった。

○実際に水がめに水を入れて運んでみよう。

ネパールで実際に子どもたちが水くみに使っている水がめをユニセフから借りて、水を入れて運ぶ体験をした。水を入れるとおよそ15kgになる水がめを運んでみて、その大変さを体験した。

【10月、2月】

世界の子どもの権利を守り、みんなが幸せに暮らせるように活動している国際連合の機関であるユニセフについて調べた。その際、ユニセフのホームページやパンフレット、ビデオなどを用いてユニセフの目的や活動などについて理解を深めた。

○実際に海外へ行った方に話を聞こう。(青年海外協力隊の方から話を聞こう)

ガーナに行かれた小池潤二さん、スリランカに行かれたJICA国際協力推進員の渡辺由美さんにお話を伺った。普段、なかなか外国に目が向かない子どもたちは、実際に外国で活動された方の話を興味津々で聞いていた。現地の生活や子どもたちの様子、自分たちが現地の人から多くのことを学ばせてもらったこと、生活や習慣は違ってみんなと同じように毎日を一生懸命生きていることなどを聞いて、児童はさらに外国に関心をもち、学習への意欲が高まった。

【11月】

○これまで学習したことや自分たちの考えをユニセフの方に聞いてもらおう。

日本ユニセフ協会とテレビ会議でつないで、日本ユニセフ協会の職員の方に自分たちがこれまで学習したことを発表したり、わからないことを質問したりした。

さらに世界の子どもの実態についてくわしく教えていただいた。また、自分たちにできることは何か、これまで学んだことを自分自身のこれからの生き方につなげていくことなどアドバイスをしていただき、テレビ会議を通して多くのことを学ぶことができた。

○これまで学んだことや自分たちの思いを多くの人に発信しよう。

日本ユニセフ協会の職員の方の話を聞いて、これまで学んだことや自分たちの思いを多くの人に知ってもらうように働きかけることも自分たちにできることのひとつだと気づき、これまで学習したことやメッセージを劇化し、学習発表会で発表しようということになった。

脚本チームを作り、児童がこれまで調べたことや青年海外協力隊の方の話などをもとに場面や台詞を考え、およそ1か月ほどで「君の笑顔は地球の笑顔」が出来上がった。劇練習では劇団の方にも指導に来ていただき、この劇を通して何を伝えたいのかを考えながら練習をした。脚本作りから大道具、小道具、幕、照明とすべて児童の手で行ったまさに手作りの劇。全員が思いを1つにして取り組み、最高の劇が出来上がった。劇のエンディングには日本ユニセフ協会の職員の方にもテレビ会議を通じて登場してもらい、観客に向けて劇の感想やこれまでの6年生の取り組みなどを語っていただき、観客に強くメッセージを伝えることができた。学習発表会が終わり、出口で募金活動を行った。観客の方に児童の思いが通じ、たくさんの方がユニセフ募金に協力してくださった。この劇を通じて児童はみんなで協力して思いをひとつにすれば、

自分たちの思いが多くの人に伝わり、人の心を動かすことができることを実感することができた。

【12月】

個人懇談会の日にユニセフバザーキット(ポストカード)の販売を行った。自分たちで全校の保護者宛に案内の文書を作ったりチラシを作ったりして活動をした。学習発表会から日数的にもそんなに経っていなく、たくさん保護者の方が6年生の思いを受け取ってくださり、懇談会の帰りにポストカードを購入してくださった。

【3学期】

この学習から学んだことや今後どう生かしていきたいかなどを考えまとめた。そして、世界中の子どもたちの笑顔が見られるように、その思いを卒業制作として全員でパッチワークで表現することにした。一人一人が世界の子どもの顔や井戸、水瓶などこの学習に関連した物をパーツとして作り、つなぎ合わせておよそ縦180cm、横150cmのパッチワークが出来上がった。

さらに5年生に自分たちが学んできたことや思いを発表し、この6年生の思いを引き継いで4月から最高学年としてがんばってほしいことを伝えた。



卒業制作「パッチワーク」



5年生へのメッセージ

4. 成果と課題

世界に目を向け、世界の子どもの人権を考えようと日本ユニセフ協会と連携を取りながら様々な学習活動を行うことができた。学習を始めるまでは、ややもすると児童は、遠い国のことなどと考え、自分たちの問題として捉えられないなど学習が深まらないのではないかという不安もあった。しかし、ユニセフのホームページや視聴覚ライブラリー、貸し出し教材などを用いたり、テレビ会議を使ったユニセフの方との交流、青年海外協力隊の方の生の話など多くの人たちとも触れあったりしながら、児童は自分たちの問題であるととらえ、意欲をもって継続的に学習に取り組むことができた。学習をするにつれて、何かをしてあげようという気持ちから、世界中の子どもたちが自分たちと同じように一生懸命がんばっていること、自分たちの日頃の生活を振り返り、水を大切に使う、感謝の気持ちをもって過ごしたいなど考えることができた。

また、児童は自分たちにできることとして募金やユニセフのバザーキット販売、劇化して多くの人への発信、下級生に思いを伝えること、卒業制作でパッチワークに思いを表現することなど自分たちで考え、長期的に取り組むことができた。そして、全員で協力して実践できたことでさらに児童の心に強くこの学習が印象に残り、自らの問題として取り組めるようになり、大きな成果となって表れたと思う。卒業式のスピーチでは「将来、医者になって世界中の人を助けたい」「ユニセフの学習が心に残っている。これからの自分の生き方に生かしたい」などこの学習のことを発表する児童がたくさんいた。自分をしっかり見つめ、将来を見すえた熱い思いや力強いメッセージは式場のみんなを感動させた。学習したことがこの6年生にとって大きな糧となることと思う。

これらの取り組みがこれで終わってしまわないよう、今後も校内全体、児童会などで継続的に取り組めるようにしていきたい。